



NHK『日曜討論』に出演（12月12日）

足立信也県連代表・参議院幹事長が、12月12日(日)に放送された NHK『日曜討論』に出演し、「与野党に問う オミクロン株は？くらしは？」というテーマで与野各党の代表者と議論を行いました。

足立代表は、日本の感染状況把握について、日本では「感染者数」と「発症者数」が混同されている点を指摘し、「日本の感染者数はあくまで『有症状者を検査した数』に過ぎないため、欧米の『全員検査』（症状のない人も含めて検査した数）と比べると、感染者数が桁違いに少なくなっている」と述べ、検査数に対する感染率を比べれば日本も欧米並みの約6%の水準であると指摘しました。



また、18歳以下を対象にした10万円給付をめぐる問題については、「給付に所得制限を設けると不公平感がどうしても出てくる。国民に一律給付したうえで課税対象として所得税の累進課税を利用すべきだ」と述べました。

豊後大野市議会 一般質問（佐藤昭生議員・12月8日）



12月8日(水)、県連幹事長である佐藤昭生議員が豊後大野市議会一般質問を行いました。

最初に、市役所の技術系職員(土木・建築・電気および機械)に関して、人員構成や人員確保はどうなっているか、日々更新される新技術に対応できる職員の養成・スキルアップはできているか、防災や災害対応に備えた予備調査や技術研修が行われているか、その現状について質問しました。

市からは、新規採用試験を全国に広く募集する方式に改め、県との研修会を随時行っており、災害時に職員を派遣し合う協定を他自治体と結んでいるとの答弁を得ましたが、佐藤議員は、50歳以上が半数弱という年齢構成から技術系職員が将来不足するのではないかと指摘し、初級の土木技術者の採用強化と人材確保の施策を求めました。また現場で様々な職員が実地経験を積み、地元建設業者育成のための技術指導を行うことを合わせて要望しました。

次に、市道の維持管理に関して、道路補修・舗装修繕といった作業の管理の状況と実施する際の優先順位について質問しました。佐藤議員は道路愛護作業として地域・自治会が行っている草刈り・道路清掃作業の回数とその際の補助金の算定基準について確認したうえで、町村合併以来据え置かれている算定基準の見直しが必要ではないかと指摘しました。支障木の伐採に関する法律(民法第233条)の改正で枝を所有者に切除させられるようになったことにも触れ、市内の支障木問題の現状と改正に関する市の見解について質しましたが、市はこれまで所有者の許可なく伐採できなかったが、適切に対処していく方針であると答弁するにとどまりました。

最後に豊後大野市の国内外の友好交流都市との関係について質問しました。コロナ禍の収束後にどのような交流を計画されているかについて質問し、なかでも国内の友好交流都市である台東区(東京都)との関係は重要であり、職員の人事交流やスポーツ少年団の交流、首都圏直下型地震による被災者受け入れなどを提案して質問を終えました。